

みんなソラノシタ

第2回

幼稚園留学

2018

活動報告





目次

代表あいさつ	2
第2回幼稚園留学について	3
幼稚園留学に参加したお母さんたちの言葉	5
幼稚園留学にご協力いただいた皆様のご感想	7
受け入れ幼稚園保護者の感想	11
親子留学等の御礼	11
ミナソラの歩み	12
福島の子どもたちを応援	16
ミナソラノシタの活動・幼稚園留学を通して	18



『代表あいさつ』

ミナソラノシタ（ミナソラ）の活動は7年目を迎えました。

ミナソラにご縁をいただきました皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

福島では現在も4万人近くが避難生活を余儀なくされ（平成31年4月5日福島県災害対策本部）放射線に対する専門家の見解も様々です。福島に住む友からも、関西に避難して来ている友からもたくさん話を聞きました。

彼女たちの暮らしは東京電力福島第一原発事故で一変し、我が子を守るために悩みながらも必死に子育てする母たちを身近で感じました。

個々が悩み決断した選択が誰にも否定されない社会になることを願ってやみません。

日本には50基を超える原発があり、いっどこで事故が起こってもおかしくないのです。目の前で涙する福島の友は明日の私の姿かもしれないと思うのです。だからこそ我が子のためにも日本の未来のためにも共に福島を見つめ続けていきたいと思えます。

今まで13組の親子に幼稚園留学でご縁をいただきました。

幼稚園留学に参加した福島の母たちは自身の震災体験や今の気持ちを人に話したことが初めてだと言います。福島では個々の体験や置かれた状態が異なるため話さない、話せない。京都の人たちが耳を傾けてくれることで、初めて自分自身この数年を振り返り、語ることで自分の気持ちや思いを整理することができたと言います。

京都に住む私たちにとってもたくさんの学びがあります。福島の方々が勇気を振り絞って語ってくれる経験から防災意識も社会への眼差しも変貌した母や住民がたくさんいます。また小さい時に社会課題を身近に感じる経験をした子どもたちは、大きくなった時にきっとその問題に関心を持ってくれると信じています。実際幼稚園留学で福島の友達を迎えた京都の母子・地域の方々は福島がメディア等で話題になる度に、幼稚園留学で友達に

なった福島の友のことを思い出します。そして福島に関心をもち、家族で話し合ったり、実際自分の目で福島を見たいと現地に出向いた中学生もいます。幼稚園留学の最大の目的が友達になること。友達になることが本当に大切なことだと実感しています。

幼稚園留学・ミナソラの活動を振り返り共通して思うことがあります。それは立場の違う多くの方々が自分のできる最善を善意でご提供くださり実現しているということです。幼稚園連盟・行政・企業・団体・個人が力を合わせ皆がそれぞれの立場で共に福島の友を応援してくださることが本当に嬉しく、私たちメンバーの支えにも励みにもなっています。

最後に今回参加してくれた福島の幼稚園児に『京都で一番楽しかったことはなに？』と尋ねると『お外で綺麗な葉っぱやどんぐりをいっぱい拾ったり、砂場でお山を作ったり泥んこあそびをしてもお母さんに怒られなかったこと』と返ってきました。

活動7年目となる今年は、皆様のお知恵とお力をお借りしながら多くの方々と連帯し、今後も継続して福島の友をお招きできるように考え行動していけたらと願っています。そのためにもご支援ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

100年先もミナソラノシタ幸せな社会の実現の一助となれますようにと願いを込めて…

ミナソラノシタ代表 林 リエ



『幼稚園留学とは』

東京電力福島第一原発事故の影響で、生活環境が変化した福島県の幼稚園児と母親を京都に招き、3週間生活してもらう取り組みです。

滞在中子どもたちには京都の幼稚園に通園し、新しい京都のお友達と自然に触れ合いながら思いきり外遊びを楽しんでもらいます。

福島での放射性物質の拡散と土壌への沈着の程度は健康に影響ないという意見もありますが、長期的な低線量被曝の人体への影響にはまだ不明な点も多く、「見えない不安」にストレスを抱えながら、日々の子育てに奮闘している福島の母親は少なくないようです。

幼稚園留学は、そのような福島の子どもや母親たちが京都で3週間過ごすことにより心身ともにリフレッシュできることを期待して行っています。

これは、チェルノブイリ原発の事故を受けて現在もベラルーシ共和国が国策として行っている子どもたちの保養（非汚染地域に21日以上滞在すること）によって体内の放射線量が半減するというデータにヒントを得たもので、年齢が低いほど放射線の影響を受けやすいとされる幼児に少しでも安心できる生活を送ってもらおうという取り組みです。

また、幼稚園留学を受け入れる側の京都の私たちにとっても、福島の子どもの声を聞き、現状を知り、被災地に心を寄せるきっかけにもなり、防災意識も高まります。

そして最大の目的は、福島の母子と京都の母子・地域の方々が友人になることです。

募集

福島県私立幼稚園・認定こども園連合会を通じて、各園にチラシ17,000枚を配布。

参加者

応募者19組の中から4組（大人4名+子ども8名）を選定。

- Oさん(郡山市) + 双子の年中児
- Iさん(郡山市) + 年中児+未就園児
- Nさん(郡山市) + 年中児+未就園児
- Kさん(郡山市) + 年少児+未就園児

実施期間

平成30（2018）年10月16日から11月3日まで

受け入れ幼稚園

洛西花園幼稚園（京都市西京区）



主な行事

◇クッキング教室（洛西花園幼稚園）

保護者向けのクッキング教室に福島の母親とミナソラメンバーが参加

◇笑いヨガ体験（ジオ阪急洛西口キッズスペース）

笑いヨガ講師大波ヒロ子先生をお招きし福島の母親とミナソラメンバーが参加

◇坐禅体験・ランチ交流会（妙心寺）

妙心寺僧侶指導による坐禅体験に幼稚園保護者、福島の母親、ミナソラメンバーが参加

◇ミナソラ秋まつり（SU・BA・CO及び洛西口つつじ公園）

福島のお母さんを囲むお話会、福島の民芸体験、子ども遊びコーナー、飲食コーナーなどを設け、幼稚園留学の支援者や地域住民と交流



丸益西村屋さんで京友禅体験



洛西花園幼稚園の先生たちと



臨済宗総本山妙心寺で坐禅体験

メディア取材

京都新聞	2回掲載
毎日新聞	1回掲載
読売テレビ・関西テレビ	各1回放送

ご協力いただいた皆さま（敬称略）

幼稚園児受け入れ	学校法人花園学園 洛西花園幼稚園
ミナソラ秋まつり会場提供	株式会社リヴ
食材提供	生活協同組合コープ自然派京都、生活クラブ京都エル・コープ
無料体験提供	千弥農園、丸益西村屋
物品・サービス提供	京都信用金庫桂川支店、ならの木薬局大原野店、津山刺繍、バリニーズマッサージ、おとくに竹あそびの会・竹遊会
ご寄付	株式会社キリン堂、国際ソロプチミスト京都一西山、京都鉾町ライオンズクラブ、その他企業・団体・個人の皆様
助成	株式会社ラッシュジャパン、浄土真宗本願寺派（西本願寺）、京都オムロン地域協力基金、京都府地域力再生プロジェクト、京都新聞社会福祉事業団

『幼稚園留学に参加したお母さんたちの言葉』

「今度はいつ京都に行くの？」

「また洛西花園幼稚園に行きたいよ！」

郡山に帰って来てからというもの、この言葉を聞かない日は1日とてありません。花園幼稚園に通い毎日お外遊びを心ゆくまで堪能したためか、娘は季節外れの日焼けをし、少し精悍な顔立ちになった様な気がします。

何が一番楽しかったのか尋ねてみると、「お外で綺麗な葉っぱやどんぐりをいっぱい拾ったり、砂場でお山作ったり泥んこ遊びしてもお母さんに怒られなかったこと!!」という答えが返ってきました。

太陽の下で風を感じながら遊ぶ楽しさ、落ち葉やどんぐりなど季節のものに触れることの尊さ、それらの経験を奪ってしまっている現状に、改めて申し訳なく後ろめたさを感じた瞬間でした。

郡山に戻ってきたことで、また娘には息苦しい思いをさせてしまう事になりますが、今回一緒に留学に参加した他3名のママさんに出会えたことで、被曝に対する不安や子どもたちの将来を心配する胸の内を吐き出せる場所が出来、また遠く京都の空の下にはそんな私たちの気持ちに寄り添って下さるミンナソラノシタの皆さんや、応援して下さる方々が沢山いらっちゃって、皆さんにお会いできたことが本当に心強く、かけがえのない大切な出会いになりました。

子育てが落ち着いたら、今回参加させて頂いた4人のママ達全員で必ず京都へお礼に伺いたいと思います。その時には「あの頃は被曝に対して過剰に意識しすぎていたね」と笑って言い合える状況になっていますように。

震災から7年半。保養自体もだんだん減っていく中、このようなプロジェクトを企画・運営していただき大変嬉しく思います。

実際に参加してみて、人と人との新たな出会い・繋がりの素晴らしさ、県外に出て子どもの体を休めることの大切さ等々を改めて感じました。

我が家は、これまでもこれからも福島県で生活し子育てをしていきます。その選択をした夫と私のことを将来子どもたちはどう思うのだろうかという不安は常にあります。

保養や幼稚園留学に参加することは、その不安を解消させるための保険のようなものかもしれないし、親の自己満足と言われてしまうかもしれませんが、福島で子育てをしている私たちが子どもたちにしてあげられ

ることは限られています。

だからこそ、できることを精一杯してあげたい。この3週間そんな思いが更に強くなりました。

そしてまた、このプロジェクトは“福島の子ども”に限らず、全国に広まったら素敵だなと思います。

幼児期の子どもの世界は非常に狭いです。でもね、君たちのいる世界はもっともっと広くて素晴らしい出会いがたくさんあるんだよ。というのを、我が子が体験したように、たくさん子どもたちが体験できたら素敵だなと。

この幼稚園留学というプロジェクトが未来を担う子どもたちのためにずっとずっと続きますように…心から願っております。

京都で過ごした3週間はとても充実した毎日でした。

福島では子どもたちにさせられない砂遊びやどんぐり拾い、草木に触らせることも躊躇なくできました。

放射能の心配をしないで暮らせるということがこんなにも幸せなのかと、「当たり前のこと」を実感しました。

子どもたちも幼稚園がとても楽しかったようです。

短い期間でしたが友達もでき、今でも「洛西花園幼稚園に行きたい。」「池田先生や山田先生に会いたい。」と話しています。

私は母子避難を考えていますが、京都では実際に母子避難された方々とお話する機会がありました。皆さんがとても悩み、考えに

考えたうえで避難を選択されたことがよく分かりました。

「悩んでいるのは自分だけではない。」と励まされた気持ちになったのに加え、何を優先させるかを考えるよい機会になりました。

「子どもたちを守っていきたい。」と強く思いました。

保養を行っている団体が年々少なくなる中、21日間という長い期間、無償で参加できたのは本当にありがたかったです。

京都発のこのような取り組みが全国に広がり、国などを動かす力になってほしいと感じています。

最後になりましたが、ミナソラをはじめ京都の皆様には、遠く離れた福島のことを忘れずにいていただき、改めて感謝申し上げます。

私が幼稚園留学に応募した理由は、気兼ね無く自分の子どもたちを外で遊ばせられる環境に身を置きたいと思ったからです。

自主避難先の新潟から福島に戻ったとき、受け入れられる部分は受け入れて、自分が出来る範囲で子どもを守ろうと、心に決めていました。しかしいざ戻ってみると思った以上に閉鎖的な空気感を感じました。

お友達が土いじりで遊んでいれば一緒に混ざって遊びたくなるのが子どもだと思いますが、他の親御さんの前で何と言って止めればいいのか、他にも細かい放射能に対する意識のズレを感じる機会が多くあり私は器用に生きていく自信を無くしていました。

やはり「福島は安全！」と受け入れて生きていくしかないのか？

そんな時見たのが連絡帳に入っていたミナソラノシタの幼稚園留学のチラシでした。救いの手が差し出されたような感覚がありました。

留学中、娘は毎日「新しい幼稚園楽しい！」と言って帰ってくるので安心して毎朝送り出す事が出来ました。結局最後まで一度も幼稚園イヤ、という言葉は聞く事はありませんでした。

給食も毎日出して頂き、内部被曝など心配

しなくてもいいんだ！と改めて、つかの間ではありますが福島で抱える葛藤を忘れて過ごす事が出来ました。

今回幼稚園留学に参加できていなければ私は今後、福島に戻った事を後悔し続けながら福島で過ごして行かなければならなかったかもしれません。

それが今回、同じ悩みや葛藤を持ったママや遠くから応援してくれている同じママがいると分かっただけでも私は心に御守をもらえたような感覚になったのです。

将来、娘が成長したら改めて震災の事、被曝の事、幼稚園留学の事、親子で語らえたら良いな…と勝手ながら妄想してしまいました。

その頃には幼稚園留学は福島子ども達には当たり前にある恒例行事のような物になっていれば理想なのだと思います。

最後に、今回の幼稚園留学は震災で人生が変わった私にとって、とても大きなターニングポイントになったと思っています。

少なくとも私は皆さんの善意に救われた1人かと思っています。

ご縁という御守を心の支えにして福島での子育てを頑張っていきたいと思っています。

『幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想』

昨年度に引き続き今年度も幼稚園留学の受け入れを年中児4名、年少児1名の計5名、10月16日から11月3日までの3週間させて頂きました。

今年も元気いっぱいの子どもたちが来園してくれました。

制服に着替えて自己紹介をして初めて会う先生やお友達とすぐに仲良くなりました。

子どもたちは、園庭で遊んだり遠足に出かけたりお天気のいい日には園庭でお弁当を食べたり、太陽の日差しをいっぱい浴び楽しく3週間を過ごしてくれました。

また、福島のお母さまには、幼稚園で行ったママのためのクッキングに参加して頂いたり妙心寺に参拝し法話や坐禅体験をした後、幼稚園の保護者とランチを楽しみながらいろ

いろな話を聞かせて頂きました。

「制限に縛られず、不安を抱えることのない充実した毎日を過ごすことが出来ました。」と話して頂き、少しはリフレッシュして頂いたのかと安堵しました。

まだまだ制限を余儀なくされて今後も過ごされていく福島県のお母さまには、これからも心労は続くと思いますが、遠く離れた京都から心を運んで行きたいと思います。

今回もミンナソラノシタのスタッフの方と多くの皆様の支援を頂き、私共幼稚園も協力できたのだと多くの皆様に感謝致します。ありがとうございました。

洛西花園幼稚園 園長 小山内 定代

平成23年3月11日14時46分。我々金融機関の営業は15時迄で、閉店までの何気ない時間が経過している最中の地震でした。

京都は少し揺れた程度であり、業務も支障なく終えて後片付けをしていたところに、テレビで東北地方の衝撃的な映像を目にしたことが今も脳裏に焼き付いています。

昨年、ミンナソラノシタ様のイベントに参加し、福島の方のお話を聞いたことで、あの時の記憶は決して風化させてはいけないと改めて思った次第であります。

今年で東日本大震災から8年が経過しました。ミンナソラノシタ様の活動が益々注目を

集める状態となり、メディアに取り上げられる機会も増えております。

去る3月2日に開催された、第7回「京の公共人材大賞」でミンナソラノシタ様が受賞された最優秀賞は、ミンナソラノシタ様の活動が認められたことはもとより、震災で被災された方々にも勇気が湧いた受賞ではなかったでしょうか。

これからも活動は大変だと思いますが、皆の心に響く活動を陰ながら応援しております。

京都信用金庫 桂川支店 舞鶴 修一

『幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想』

昨年引き続き、本年も京都へお越しいただき、子ども達は元気に幼稚園に通われたとお聞きし、ほっとしております。

私共、株式会社リヴも昨年に引き続きミナソラノシタの皆様よりお声がけをいただき、本当に微力ではございましたがお手伝いをさせていただきました。

弊社はお客様のお住まいを建築するお手伝いや、不動産購入のお手伝いをさせていただくことを主な仕事としております。その業界に携わっている私たちから見ても現在の福島は、表面的には通常の生活をされていらっしゃるようには見えておりますが、本当の復興へはまだまだ支援が必要であると考えて

おります。

お客様のお住まいに関するお手伝いをさせていただく私たちだからこそ、福島のお話を聞くたびに胸を締め付けられる思いをしております。

本年はミナソラ秋まつりの会場として、弊社をご利用いただきました。どのようにご支援させていただくことが良いのかもわからぬままのお手伝いとなっておりますが、子ども達が青空の下で元気に遊べるその日まで私たちもご支援が出来るよう頑張っていく所存です。

株式会社リヴ 代表取締役 波多野 賢

今から約1年半前、現在の部署に配属となったことをきっかけにミナソラノシタとの関わりを持たせていただく事となりました。

当時、ミナソラノシタの活動報告から福島県の現状を知る事となり、愕然として言葉が全く出なかったことを今でもはっきりと覚えています。

8年前の東日本大震災による被害状況については報道を通して知ってはいたのですが、遠く離れた関西に住む私には想像し難い部分があり、さらに時間の経過とともに、関心が薄くなっていたというのが正直なところでした。

しかし、幼稚園留学に参加された皆様

の感想文を読ませていただいた時、何か自分にもできることはないのかという気持ちがこみ上げてきました。

そして、この気持ちこそがミナソラノシタのメンバー全員の原動力なんだということに気づかされ、メンバー全員の想いに共感する事ができました。

私たち企業にできることはわずかな事かもしれませんが、福島県の皆様に少しでも元気をお届けする事ができる様、精一杯応援をしていきたいと思っております。

株式会社キリン堂 総務部課長 西村 将二

『幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想』

「私は福島に残り、生きていく事に決めました。この子が大きくなった時に、なぜお母さんは私を連れて福島を出てくれなかったの？と子どもに言われた時、私は何と答えたらいいのだろう。」参加されたお母さんの想いを聞きました。

自分の人生だけでなく、自分の子ども、孫にまで続くかもしれない原発事故の影響に不安を感じながら生きていかれる方達の想いをお聞きし、胸が苦しくなりました。

福井から60キロしか離れていない京都で暮らす私たちも、原発の問題に一人一人が責任を持ち行動していく事の大切さを感じました。

私たちコープ自然派京都は、組合員の皆さま

んにミナソラさんの活動をお伝えし、カンパを募り、多数の賛同をいただきました。そのカンパから、自然派の安心安全な食材、調味料、お米、パンなどを提供させていただきました。

「見知らぬ土地で、安心安全な食べ物が届けられることは、とてもありがたかったです。」というお言葉もいただき、嬉しく思っています。

この先も、ミナソラさんの活動が続けられることを心から願っています。

生活協同組合コープ自然派京都 理事 大塚 章寿

昨年同様、生活クラブ京都エル・コープでは、組合員にカンパを呼び掛け、202人から108,900円が集まり、滞在中の食材提供とミナソラノシタへの寄付という形で、幼稚園留学に協力させていただき、また、秋まつりのブースではお菓子の販売をしました。

滞在中に直接食材を届けた当生協組合員は、バナナを渡した時に喜んでくれた子たちの顔がとても印象的だったと言っていました。

幼稚園留学に協力させていただいた中で、まつり午後の「福島のお母さんを囲むお話し」が非常に心に残りました。「事故から7年、当時はまだ生まれていなかった子どもたちが園児に育ちました。」「忘れないでいてくれてありがとう。」「これからも忘れないでいて欲しい。」という言葉から、この取り組みが長く続く事を願うという思いが、異口同音に伝

わって来ました。

事故当初「ただちに影響はない」と言われていました。事故から8年経ち、これからの影響が心配です。チェルノブイリ事故の後、ベラルーシの保養は国家予算で行われ、今も続いています。

私たち生活クラブ京都エル・コープで「福島のごどもたちのリフレッシュツアー」を始めた2011年夏、これは長い活動になるけど絶対続けなアカンね、と話して始めました。

こういう市民の活動が、国や行政をいつか動かす!!と思いつつ、今後も福島のお母さん達に寄り添う活動を続けていきたいと思つています。

生活クラブ京都エル・コープ 理事会事務局

奥田 郁子

『幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想』

ラッシュでは東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射線の影響を受け、自然とのふれあいや外遊びなど、原発事故さえなければ当たり前だったはずの子どもらしい時間を過ごす機会を制限された子どもたちに「楽しみ」を届ける活動を支援するFunDという助成金を運営しています。ミンナソラノシタさんとのご縁もこの助成金に申請いただいたことからでした。

本助成金で応援させていただく企画は1週間前後の短期保養が多いのですが、ミンナソラノシタさんの幼稚園留学の場合、チェルノブイリ原発事故の影響を受けた地域の保養に倣い3週間で、子どもたちは「幼稚園に通う」という日常生活を行いながらリフレッシュできるというのもユニークだなと感じています。

幼稚園留学の際にお邪魔させていただいたのですが、京都に来た当初は使い方がわからなかった園庭の遊具をお子さんが楽しげに使いこなす姿や、幼稚園の先生や新しくできたお友達と談笑する姿、プログラムに参加された保護者同士が談笑される姿など長期プログラムだからこそ実現できるお子さんの成長、

京都の皆さんと福島の皆さんの交流を目的にすることができました。

またお子さんたちに「何が一番楽しい？」と尋ねると口をそろえたように「外遊び」と帰ってくることから福島での日常とは異なる日常を京都で過ごしているのだなということを感じました。

東日本大震災、福島第一原発の事故から今年で8年。

年月と共に復興への歩みを進んでいる部分がある一方、福島第一原発事故の影響、そして目に見えない・におわない放射線の問題は今なお多くの人々の生活に影響を与えていると思います。

福島で今を暮らすという選択をされている方たちが、子どもの健康や未来を考える上での大切な選択肢として、また京都と福島の人々の友達の輪が広がることを願って本プロジェクトのますますの発展をお祈りしています。

株式会社 ラッシュジャパン チャリティバンク事務局
種村 香奈美



『受け入れ幼稚園保護者の感想』

◎こんな所に産んでごめんね…可愛い我が子に向けた言葉に、こんなにも切ないものがあるのかと思った2年前。福島からいらしたお母様方のお話は、同じ母として胸が引きちぎられるような痛みを今も残しています。お母様方から伺う当時のお話では、偶然にも同じ時期に妊娠出産をした私の経験とは全く違う不安と向き合われ、過ごされてきたことを知りました。

福島のお母様方は、知っていただくだけ、想ってくださるだけでも私達はうれしい、とおっしゃっていました。

どうぞこの意義あるプロジェクトが末永く続きますように。

◎今回福島県のお母様とお話しする機会を頂き、7年以上経ってもなお放射能の不安が解消されていない現状を知りました。

留学中、幼稚園から帰宅した子どもの靴に砂が入っていたことが嬉しかったとおっしゃるお母様の言葉がとてもショックで、涙が出ました。

『親子留学等の御礼』

平成23年3月11日の東日本大震災・東京電力福島第一原発事故により福島県の子どものたちの日常生活が一変した日から8年が経過しました。

未だに18歳未満の県外避難者は7500名を数え、多くの県民が県外・県内に避難していますが、県内各地域の事情は異なるものの徐々に除染が進み、子どもたちは園庭での外遊びが出来るようになってきました。

少しずつ改善されつつはありますが、転びやすい、体力低下、肥満、こころのケア等々大きな課題が山積しています。

県内各園の教職員は、子どもたちが心身ともに健やかに成長することを願い、安全・健康・育ちを保障するため保育の工夫等、最善の幼児教育環境構築のため一丸となり、子ども・保護

者に寄り添いながら努力を続けています。

8年間の永きに渡り、室内あそびの砂等々支援物資の寄贈や京都での親子留学など福島の子どもたち・保護者への支援をいただき、放射線の心配をせずに外遊びしたり、皆様との交流等で過ごす楽しい京都での日々は、子ども・保護者にとって一生忘れられない「宝物」となっています。

ミンナソラノシタ様の特段のご配慮、ご支援により、福島の子どもたち・保護者が笑顔で元気で過ごせるようになりつつあります。衷心より感謝申し上げます。

福島県私立幼稚園・認定こども園連合会

理事長 平栗 裕治

2013-2019

みんなソラノシタの歩み

8月

まこと幼稚園(京都府向日市) おこないプロジェクト発足

原発事故後、保育環境の変化に苦労されている福島の幼稚園の先生を京都に招くプロジェクトがまこと幼稚園で始動。

平成
24年
(2012年)

平成
25年
(2013年)

7月

みんなソラノシタ発足

おこないプロジェクトに参加し、福島の問題には持続的な支援が必要だと実感した林リエ代表が、福島支援団体を設立。「100年先もみんな空の下で幸せに暮らしてほしい」という想いで、「みんなソラノシタ」と命名。子育て中のママたちが主なメンバー。

オリジナルグッズ企画

収益を福島支援に活用するため、オリジナルグッズ製作を企画。

8月

製品デザイン決定

イラストレーター黒田征太郎さんより、デザイン原画15点を無償提供していただき原画展を開催。投票でデザインを決定。



9月

商品決定

手さげカバン

(製作：NPO法人リンデン福祉会)

ショルダーバッグ・トートバッグ

(製作：一澤信三郎帆布)

ポストカードを作成

11月

福島訪問

郡山市、福島市へ。大槻中央幼稚園や3a、福島市子ども支援課等を訪問。





2月

新製品キックオフイベント開催

新風館（京都市中京区）にて、新製品のお披露目を開催。

黒田征太郎さんによる「木端アートワークショップ」で完成した作品を福島幼稚園に寄贈。来場者200名。



「室内砂場の寄贈」を目標に

砂場遊びが出来ない福島の幼稚園に「室内砂場」を贈ることを目標に設定。

2月

講演会

「チェルノブイリから学ぶこと」開催

講師：馬場朝子さん

9月

講演会

「世界と福島と私たち…」開催

講師：岡本知之さん 平栗裕治さん

11月

どんぐりひろいイベント開催 桂中学校とのコラボグッズ完成



平成
26年
(2014年)

3月

ミナソラオンラインショップ開設

9月

ミナソラサポーターショップ開設

11月

どんぐりひろいイベント

勝山公園（向日市）で拾ったどんぐりを、外遊びが制限されている大槻中央幼稚園（郡山市）に寄贈。



平成
27年
(2015年)

3月

郡山市私立幼稚園協会総会に出席

オーストラリア産ホワイトサンド8トンの目録を贈呈。



2月

「小さき声のカノン」上映会&
鎌仲監督トークショー開催



新製品「こどもぼうさいスケッチブック」完成

9月

株式会社キリン堂と包括協定締結

11月

どんぐりひろいイベント開催

2月

幼稚園留学キックオフミーティング
開催

5月

福島県私立幼稚園・認定こども園
連合会総会にて幼稚園留学の説明

9月

チャリティコンサート開催

出演：キッサコ・mapama・
ゆあさまさや・安田旺司



12月

ザ・リッツカールトン京都クリスマス
ギフト×ブラックファースト協力
～福島の子どものためのクリスマス
ギフト持参で、心あたたまる朝食を～

平成
28年
(2016年)

4月

講演会
「近くの原発が動きだした…私たちの
防災教育」開催

講師：小出裕章さん 守田敏也さん

5月

こどもがまんなかフェスティバル
(郡山市私立幼稚園協会主催)に
こどもぼうさいスケッチブック
1000冊寄贈



平成
29年
(2017年)

3月

京友禅体験&広域避難者交流会
(丸益西村屋)開催

10月

幼稚園留学実施

福島県から4家族13名の母子を3週間
招待。

受け入れ幼稚園：大原野幼稚園 洛西花
園幼稚園



5月

福島県私立幼稚園・認定こども園
連合会総会にて幼稚園留学の説明



平成
30年
(2018年)



10月

幼稚園留学実施

福島県から4家族12名の母子を3週間招待。

受け入れ幼稚園：洛西花園幼稚園

ミナソラ秋まつり開催

会場：SU・BA・CO（株式会社リヴ）
洛西口つつじ公園

- 福島のお母さんを囲むお話し会
- 福島伝統工芸「あかべこ・起き上がり小法師」絵付け体験
- 「おとくに竹あそびの会・竹遊会」竹遊具
- 「おもちゃばこのみんな」子どもあそび
- ミナソラマルシェ 来場者：250名



3月

ラッシュチャリティパーティー
開催

ラッシュ京都四条通り店にて
ミナソラのパネル展示。

店頭で活動紹介。

当日のチャリティポットの
売上全額を寄付していただく。



平成
31年
(2019年)



福島のお母さんを囲むお話し会にて

福島の子どもたちを

応援

★室内砂場を寄贈

子どもがまんなかフェスティバル（郡山市私立幼稚園協会主催）に室内砂場用ホワイトサンド8トンを寄贈（2015年）



★こどもぼうさいスケッチブックを寄贈

子どもがまんなかフェスティバルにスケッチブック1000冊を寄贈（2016年）



★ハンドソープを寄贈

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンで得た資金や、石鹸メーカーのご協力でハンドソープを寄贈（毎年）



- ・関西テレビで放映
「スーパーニュースアンカー」（2014、2015年）
「めざましテレビ」（2015年）
「ゆうがたLIVE ワンダー」（2015年）
「報道ランナー」（2018年）
- ・NHKテレビで放映
「ニュース610京いちにち」（2014、2017、2019年）
- ・読売テレビで放映
「かんさい情報ネットten.」（2018年）
- ・テレビユー福島で放映（2017年）
- ・KBS京都ラジオに出演
「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」（2014、2016、2017年）
- ・京都三条ラジオカフェ（FM79.7）に出演
「ハローラジオカフェ～おはようさんどす」（2017年）
「Happy NPO」（2017年）
「わくわく京の公共人材！」（2019年）
- ・FMおとくになにに出演
「リヴ☆ラジ」（2019年）

講演

- ・京都市立桂中学校で活動紹介（2015、2017年）
- ・京都市立洛西中学校で活動紹介（2018年、2019年）
- ・芦屋市立小槌幼稚園で活動紹介（2015年）
- ・講演会「100年先もミナソラノシタ」：長岡京エンパワネット主催（2016年）
- ・講演会「ミナソラノシタ幼稚園留学とは？」：コープ自然派京都主催（2017年、2019年）
- ・大阪NPOセンターにて講演（2018年）
- ・堺市市民活動コーナーにて講演（2018年）



- ・第8回ソーシャルビジネスプランコンペ（大阪NPOセンター）グランプリ（2015年）
- ・あしたのまち・くらしづくり活動賞（あしたの日本を創る協会）振興奨励賞（2015年）
- ・第7回京の公共人材大賞（京都府）最優秀賞（2019年）

今までいただいた補助金・助成金

- 京都府地域力再生プロジェクト交付金
- 京都オムロン地域協力基金
- 京都新聞社会福祉事業団
- 庭野平和財団
- キリン堂
- タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム
- 子どもゆめ基金
- 向日市社会福祉協議会
- ラッシュジャパン

寄付金

多くの企業、団体、幼稚園、個人の皆さまから、多額のご寄付を頂戴しました。紙面の都合上、お一人おひとりのお名前は記載していませんが、厚く御礼申し上げます。

『 ミナソラノシタの活動・幼稚園留学を通して 』

留学期間中は、子どもたちが怪我や病気をせずに過ごせたことと、お母様もお元気に過ごされて何よりでした。遠方からの移動に加えて慣れない場所での生活は気苦労も多かったと思います。

そして今回は天候にも恵まれて暖かい日が続きました。ミナソラ主催の「秋まつり」当日も好天の下で賑やかにイベントを催すことが出来ました。「福島のお母さんを囲むお話し会」には多くの方にお集まりいただき、ありがとうございました。

留学中の出来事を、お父さんに見せるため日記に書いていた子がいました。年中さんなのになんと漢字まで書いていました！原文の

まま紹介します。

「とうちゃん あのね 京との人たちは
あかりたちが
きょうとのようにちえんにかよえるように
きょう力してくれてるんだって
うれしいね ありがとうだね
おおきになっていうんやね
父ちゃん 大すぎやねん」

覚えてたの関西弁がかわいらしいですね。こんな素敵な文章を残してくれてありがとう。

ミナソラノシタ 小塚 真緒

東日本大震災当時、私は大学生でした。現地ボランティアは時間のある学生の役目だと思い、時間の許す限り石巻や松島、大船渡、陸前高田などへ赴きました。関西に帰ったら学生同士で情報交換をたくさんし、できることを日々模索していました。ただ、福島の原因については「これは難しい問題だ」という一言で片づけてしまい、話題に上がることを避けていたように思います。

母親になって1年がたった2018年春に、ミナソラに入りました。初めて出会う同世代の福島ママの話は、心に刺さるものがありました。私が”難しい問題”としていたことが、日々の生活に直に関わる身近な問題であると

いう現実に、ただただ涙を流すことしかできませんでした。そして、同じように子を愛する母親として、同じように明るい未来を願う者として、他人事とは思えませんでした。

この幼稚園留学の間、福島ママからたくさんのことを教えていただきました。福島のことはもちろん、親のありかた、大人の責任、そして我が子を愛する愛情の深さ…。母親として尊敬すべきところがいくつもありました。京都ー福島と距離はありますが、ずっと心から応援しています。またお会いできる日を楽しみにしています。

ミナソラノシタ 吉田 侑香里

利益の一部を「福島子ども応援基金」に積み立てています



ミンナソラノシタオリジナル
こどもぼうさいスケッチブック
¥500
(1冊につき¥100の寄付)



ミンナソラノシタ×黒田征太郎×リンデン
手さげカバン
¥2,000
(1つにつき¥300の寄付)



ミンナソラノシタ×澤信三帆布
ショルダーバッグ
¥12,000
(1つにつき¥2,000の寄付)

ミナソラサポーター ショップのご紹介

こちらの協力店舗でミナソラの「手さげカバン」を販売してくださっています。
販売利益は全額福島子ども応援基金にご寄付いただいています。

マルヤス (向日市立向陽小学校横)
京料理 松長 (京都市中京区高倉通御池)
Honda Cars 乙訓 (向日市上植野)

Books&Cafe Wonderland (JR向日町駅前)
リンデン福祉会 (京都市北区紫野)



「手さげカバン」や「こどもぼうさいスケッチブック」を、バザーや記念品、指定用品として全国各地の幼稚園に採用いただいています。

入園・入学に必要な物に選んでいただくことが、継続的な福島の子どものための応援につながります。皆さまのご協力をどうぞよろしくお願い致します。

<後援>

公益財団法人福島県私立幼稚園・認定こども園連合会、福島県郡山市私立幼稚園協会、京都信用金庫

<special thanks>

黒田征太郎 (株式会社エスエーエス)、株式会社一澤信三帆布、特定非営利活動法人リンデン福祉会、株式会社キリン堂、京都鉾町ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト京都一西山

ミンナソラノシタ 第2回幼稚園留学2018活動報告

(発行日: 2019年5月1日)

発行・編集

ミンナソラノシタ事務局

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1

京都市市民活動総合センターメールボックス40番 ミンナソラノシタ

TEL 080-2540-3224 FAX 020-4667-7721 ✉ mail@minasora.org



メンバー随時募集中!



ミンナソラノシタ

